

北大東村における百日咳の流行について

1 概要

北大東村では、9月以降、百日咳の流行が続いており、11月30日の時点で、感染症発生動向調査事業の届出基準を満たす症例が44名、届出基準のいずれかを満たす症例が66名、合計110名が確認されています。また、届出基準を満たす症例のうち7名が幼稚園児、19名が小学生、7名が中学生、届出基準のいずれかを満たす症例のうち6名が幼稚園児、12名が小学生、9名が中学生となっています。

北大東村を管轄する南部保健所、北大東村役場及び北大東診療所により村民への注意喚起及び感染拡大対策が実施されておりますが、年末年始の帰省等による他地域への拡大の可能性もあることから、県民の皆様へ注意を呼び掛けます。

百日咳は感染力が強く、乳幼児が感染すると重症化あるいは死にいたることもあります。感染対策には予防接種が非常に重要ですので、乳幼児でまだ予防接種を受けていない場合は早めに接種してください。また、成人では一般的に軽症となりますが、菌の排出があり、ワクチン未接種の新生児・乳児に対する感染源となりうるため、咳が長引く場合は早めに医療機関を受診してください。

【参考】感染症発生動向調査事業、百日咳届出基準

届出のために必要な臨床症状（ア及びイを満たすもの）

ア 2週間以上持続する咳嗽

イ 以下のいずれかの要件のうち少なくとも1つを満たすもの

（ア）スタッカート及びウーブを伴う咳嗽発作（3 百日咳について 参照）

（イ）新生児や乳児で、他に明らかな原因がない咳嗽後の嘔吐又は無呼吸発作

2 百日咳の患者発生状況

感染症発生動向調査事業において県内の小児科定点医療機関（34 施設）の協力を得て、患者情報を週単位で収集し、県民及び医療機関に情報を提供しています。

ただし、北大東村内の医療機関は小児科定点医療機関ではないため、報告数には含まれていません。

【百日咳の定点当たりの患者報告数】

年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年 (11/20まで)
沖縄県	233	146	99	186	198	214
全国	4,395	4,087	1,662	2,066	2,675	2,722

3 百日咳について

原因：百日咳菌（学名：*Bordetella pertussis*）。一部、パラ百日咳菌（*Bordetella parapertussis*）も原因となる。細菌。

感染経路：飛沫・接触感染

潜伏期間：7～10日

症状：普通のかぜ症状で始まり、約2週間のうちに次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。その後、特徴ある発作性けいれん性の咳（痙咳）が2～3週間続く。これは短い咳が連続的に起こり（スタッカート）、続いて、息を吸う時に笛の音のようなヒューという音が出る（笛声：ウープ）。発熱はないか、あっても微熱。咳は夜間の発作が多い。その後、2～3週間で発作は減衰するが、忘れた頃に発作性の咳がでる。全経過約2～3か月。

成人の百日咳では咳が長期にわたって持続するが、典型的な発作性の咳嗽を示すことはなく、やがて回復に向かう。軽症で診断が見のがされやすいが、菌の排出があるため、ワクチン未接種の新生児・乳児に対する感染源として注意が必要である。

治療：エリスロマイシン、クラリスロマイシンなどの抗菌薬が有効とされる。

予防：予防接種（四種混合ワクチン）が有効

感染症法：五類感染症

4 南部保健所、北大東村役場及び北大東診療所の対応

- ・ 村内対策会議の実施
- ・ 学校での職員、保護者への普及啓発、各事業所へのポスター掲示
- ・ 村内放送等による普及啓発
- ・ 県立南部医療センター・こども医療センター小児科医師による勉強会の実施